

令和4年度

勝浦中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人の子どもを大切にしたいわかる授業づくり
～ タブレットコンピュータの効果的な活用 ～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
田内 照男	校長 高橋 明 教務主任 鎌田 明美 2年主任 田内 照男
	教頭 高田 修作 1年主任 野上 昌志 3年主任 松田 堯人

校長

高橋 明

【小中連携または中高連携における共通の取組】

図書館活用による学びを広げる読書活動 タブレットを有効的に活用した授業の工夫

【各校の取組状況の把握について】

教員同士の授業参観を積極的に行い、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○生徒間の人間関係が良好であり、落ち着いた学習環境が整っているため、学力を身につけやすい状態にある。授業には真面目に取り組む生徒が多い。見通しがはっきりしている活動には意欲的に取り組むことができる。 ●学習に対して粘り強く取り組むことが難しい生徒も一定数おり、基礎・基本の内容の定着具合に課題がある。	①授業に意欲的に取り組み、授業の中で知識・技能の向上を図ろうと努力する。 ②授業や家庭学習に粘り強く取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	①授業のまとめや振り返りの充実を図る。 ②課題をこまめに出し、確認・指導をする。 ③課題を自力で取り組むことが難しい生徒には放課後の個別指導を工夫し、全員に達成感が得られるように指導する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に自分の考えを表現しようと努める生徒が多い。生徒の多くは明るくまじめで、話し手の考えを素直な心で受け止めて、一生懸命に聞くことができる。 ●話し手の考えを一生懸命に聞くことはできるが、考えを受けて感じたことを表現したり、質問をしたりするような言葉のキャッチボールができるような状態には至っていない。自分で物事を考えていく力に課題を感じる。	①情報や知識を自分で整理し、自分の考えをもつことができる。 ②相手に自分の考えを説明したり、相手の考えを引き出したりすることができる。	①教材研究において、考える・話す活動を意図的に取り入れる工夫をする。 ②授業の中でペア学習やグループ学習などによる教え合い学習をタブレットコンピュータを効果的に活用し、効率を上げる。 ③授業や学活等でスピーチを積極的に取り入れ、原稿を書かせた後、自分の言葉で発表させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○様々な課題に対して主体的に取り組む生徒が多い。また、まじめに頑張り成長したいという想いをもっている生徒が多い。 ●自ら課題を持ち授業に臨んだり、主体的に解決しようとする生徒が少ない。	①読書の意義を理解し、自主的に読書を行うことができる。 ②授業において、めあてに関心をもち、意欲的に取り組むことができる。 ③家庭学習において、計画性をもって学習に取り組むことができる。	①読書の意義を伝える。また、各教室の後ろの本棚を活用し、自然と読書に関心が向くようにする。 ②授業の最初にめあてと流れなどを説明し、学習の見通しをもって臨ませる。 ③英検などの検定を奨励し、受ける意義を伝え、た上で積極的に受検できるよう支援する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

